

“新札”直前の“新札”

第一生命経済研究所

取締役 上田 實



既にいささか旧聞となってしまうが、日本が史上最多のメダルを獲得したアテネオリンピックが終わった。男子マラソンでまさかの闇入者があったり、ドーピングにより7人ものメダルが剥奪されたりと事件もあったが、心配されたテロもなく五輪旗は北京に受け継がれた。

それにしても、最近の選手達は自分の目標をはっきりと口にする。平泳ぎの北島康介は「金を取る。タイムも狙う」と、オフィシャルホームページで言い切っていた。女子レスリング 55 キロ級の吉田沙保里は、6月の壮行会で「プレッシャーはない。絶対に金メダルを取りたい」と語った。金メダルを当然視されながら2大会続けて銀メダルに終わっていた女子柔道の谷（旧姓田村）亮子は、シドニーオリンピックの直前に、「最高で金、最低でも金」と言って念願の金メダルを獲った。今回は、結婚したから弱くなったと言われたくないとの思いからか、キャッチフレーズは「田村亮子で金、谷亮子でも金」となった。女子マラソンの野口みずきは、直接的な表現は避けながらも「最高の場所で最高の走りをしたい」と決意を語っていた。「超気持ちいいっ！」と叫んだ北島を始め、4人は何れも圧倒的な力を見せつけ金メダルを獲得した。無論、金メダルを口にして夢叶わなかった選手達もいたが、どこかの国の政治家と違っての有言実行ぶりは誠に見事であり、メダリスト達に心からおめでとうと言いたい。

おめでたいと言えば、人口動態統計によると10月は、3月・11月と並んで結婚件数の多い月だ。私はかつて生命保険会社の営業現場にいたころ、10月一ヶ月だけで5回も結婚式に出たことがある。幸い、勤務地が札幌であり、「会費制」の結婚式ばかりだったので我家の財政を揺るがすことはなかったが、東京であれば御祝儀で大赤字になるところだった。

皆様の中で10月の結婚式に招かれている方は、早目に御祝儀の現金を用意しておいた方が良いかもしれない。体操男子団体は28年ぶりの金メダルだったが、11月1日からは20年ぶりに1万円、5千円、千円の“新札（新しいデザインのお札）”が発行される。この関係で、現行紙幣の印刷が昨年末でストップされており、銀行窓口で“新札（俗に言うピン札）”の在庫が品薄となっているからだ。当初は7月には新札を発行する予定だったのが、11月に延期されたことも影響していると言われている。ちなみに、お札の最下段中央には製造元が書かれており、現行の1万円札には「大蔵省印刷局」製（1984年～）、「財務省印刷局」製（2001年1月～）、「国立印刷局」製（2003年4月～）の3種類があるが、国立印刷局製は製造期間が短く発行枚数が少ないことから、“新札”直前の“新札（ピン札）”として、「新カップル」には良い記念になるかもしれない（製造元を指定しての両替はできないので、あくまで運良く手に入ればの話だが）。

当研究所の試算では、新紙幣発行の経済効果は今年度のGDPを0.1%押し上げる程度であり、景気局面に大きな影響を与えるものではないと考えているが、新しいお札が筆筒に引き篋もること無く、メダリストのような運動量で、少しでも投資や消費を盛り上げてくれることを期待したい。